

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 6年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあり、**「豆州志稿」**の秋山富南が生まれ育ったおよそ3,000坪の敷地の中にあり、北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことができる環境の中で、理念にもあります通り入居者の皆様にゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供できるよう心掛けています。天気の良い日は、敷地内や近くの公園・大場川の土手等を散歩して気分転換のため外気浴をしています。秋には、毎年恒例になっている法人本部の畑でとれたサツマイモを焼き芋にして召し上がっていただいたり、貯蔵して食事やおやつ材料として皆さんに召し上がっていただいております。玄関前や施設周辺を整備して皆様に季節の草花を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する施設が隣接し、法人本部や他事業所と協力しながら、地域に密着した事業所運営を実践している。コロナ禍の制限がある中でも、事業所の別棟に会議室が用意され、運営推進会議や防災訓練等により、家族・地域住民や行政との関係継続を図ってきた。管理者は、職員会議や研修、個人面談にて職員の意見の抽出と職員個々の資質向上を図り、事業所の職場環境整備に注力している。管理者・職員は、桜・柿・栗などの樹木がある広い敷地内での散歩・外気浴や、法人調理員による行事食の提供、協力医・看護師との医療連携、定期的な清掃・換気・消毒による清潔な環境整備に取り組み、事業所理念の「ゆったりと、ゆっくりと第三の人生を共に歩む・・・」暮らしの支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供することを心がけ、公平平等に尽くさせていただくことで、入居者の皆様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同日々取り組んでいます。	法人は、デイサービス、訪問介護等複数の事業所を運営しており、グループ全体の代表者会議を月例で行い、問題点や改善点について情報共有を図っている。管理者は日々の申し送り時やユニット会議で情報共有を図り、理念に基づいた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住所地の安久町内会に所属し、行事などにはできる限り参加するようにしています。地域運営推進会議に町内会長をはじめ民生委員近隣の住民の方に参加していただき情報の共有に務めております。	コロナ禍により交流は制限していたが、町内会の加入や運営推進会議を活用し、情報交換を続けてきた。緩和措置を受けて、町内会長や民生委員の協力を得ながら、町内会行事「神楽」参加・介護相談など、交流機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や町内会の行事に参加することにより、町内に認知症の方が生活するグループホームがあることを認識していただき、介護相談の場を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の現況や活動報告と共に事業所内で起きたヒヤリハットや事故報告をさせていただき、同法人所属の介護支援専門員が介護相談を行い、会議の中ではミニ研修の時間を設け参加者の皆さんからの意見を取り入れて研修を行っています。	交流制限がある中でも、法人所有の近隣会議室を利用して、2か月に1回運営推進会議を開催してきた。自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員が集まり、活動報告や介護に関わるミニ研修を行い、参加者からの意見が出やすい工夫をして運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して意見や情報をいただき、年に4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し、情報交換などを行い、11月に行われる介護の日には、グループホームの紹介や各施設の活動を写真展示の形でを行っています。	年4回三島市グループホーム連絡協議会に参加し、行政・他事業所との情報交換を図りながら、写真展などに協力して関係構築に努めている。運営推進会議の意見は議事録として報告し、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、法人内に委員会を設置し、委員の職員間で各事業所の取り組みなどを話し合い、その後各事業所へフィードバックして研修を行い各職員に周知するようにしています。身体拘束廃止マニュアルを準備し、やむ負えない場合には主治医・看護師・職員・ご家族との話し合いを行いご家族より同意をいただくようにしています。	指針・マニュアルを整備し、法人の身体拘束対策検討委員会を3か月に1回開催して、他事業所との情報共有を図り、法人全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。職員会議において委員会報告を行うとともに定期的に研修会を実施して、職員の理解促進を図っている。	虐待防止に関する指針の策定と研修の実施について、令和6年度から義務付けられることから、身体拘束適正化に関する委員会・研修と虐待防止の委員会・研修は、区別して実施する仕組み作りを期待します。

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しても、身体拘束廃止と同様に委員会での取り組みを各事業所において研修を行い、チェックシートを用いて職員の高齢者虐待への意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者本人は認知症がある為制度についての理解が難しいため、主治医への診断書の依頼や個人情報シートの作成など後見人支援センターとのスムーズな話し合いができるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、ご本人(立ちあえる方のみ)ご家族に契約書・重要事項説明書・その他の書類を説明し、入居への不安を取り除くようにしています。制度改正があった場合は、変更の同意書にサインをいただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を促し、毎月入居者の様子を担当者より手紙として送るとともに管理者より電話やメールで様子や変化を伝えることでご家族の不安の抽出に努めています。	コロナ禍以降、面会は玄関で行われていたが、管理者は家族の訪問時に積極的に声をかけてコミュニケーションを心掛けている。毎月写真とコメントを付けたお便りを送り、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。電話やメールでこまめに連絡をして、家族の意向等の傾聴に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、要望や問題解決を法人会議で話し合い反映するようにしています。	管理者は、職員会議や個人面談により、職員の意見や要望等の聴き取りに注力している。個人面談では人事考課を行い、職員の資質向上を図っている。管理者は普段から職員への声掛けを心掛け、職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談の際、個人の思いを聞き事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内のミニ研修で介護技術や認知症の方への関わり方などを学び個々のスキルアップを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として実務者研修の研修場所を提供し職員のスキルアップの場を提供するとともに、ユニット会議内で研修を行い、報告書を提出して個々のスキルアップに努めています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県や三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報収集や研修の機会を確保し感染症対策の情報や認知症についても研修を行い、職員に周知するようにしています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、不安や困っていることを抽出したり、要望を聞かせていただく事で個人個人に見合った環境を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際にご家族の困っていることや施設に対しての要望を聞かせていただき、入居後も連絡を密にすることで信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談の際に伺った情報をもとにして必要な支援を行う事で、安心安全な生活が送れるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり、常に尊敬の気持ちをもって接するようにし、言葉がけを多く行う事で不安な気持ちを解消したりできるお手伝いをさせていただき共に行う事でお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、居室担当者が入居者様の様子を写真を添えてご家族に伝えるようにしています。面会の難しい方にも管理者より電話やメールにて現況を伝えるようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や親せきの方、ご友人から面会の問い合わせが多くなっています。面会も多少制限はありますが再開しましたので、今後面会の機会を増やすようにしていきたいと思えます。	コロナ禍による外出・面会制限がある中でも、家族との連絡を心掛け、工夫して関係継続に努めてきた。制限緩和を受け、感染状況をみながら、家族・親戚・友人との外出や面会機会を増やしていくよう、積極的に関係継続を支援している。	

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の状況をや相性を考え、職員が調整役となりながら入居者様同士が支えあい、助け合う事ができたり、笑いながら会話が楽しめるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービス含)が安心安全で過ごせているか退居後の様子をご家族に伺ったり、困っていることがあれば相談に乗るようにさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらないように居室の家具の配置を工夫したりして安心安全に過ごしていただけるようにしています。居室には名札を付けトイレなどは表示を大きくして不安を軽減するようにしています。	入居面談時に、フェイスシートを記入して利用者・家族の意向を把握している。アセスメントシートや気づきシート(1週間観察)を活用し、職員との情報を共有している。入居後の変化は、職員会議にて都度意見交換を図り、利用者本位の支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様の会話やコミュニケーションの中からこれまでの生活や暮らし方などを聞かせていただき、ご家族から生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の日々の様子を観察し、介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員間で情報を共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人と話をしたり、ご家族様の意向を伺い、職員会議の中でカンファレンスを行い、居室担当の職員を中心にモニタリングを行い日頃の気づきを介護計画に反映するようにしています。	法人独自の「業務日誌」「介護経過記録」を活用し、利用者の日々の状態の把握に努めている。月例職員会議のカンファレンスでは、利用者の担当職員を中心にモニタリングを行い、日頃からの気づきや課題を話し合い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、健康管理表、排泄管理表等で日頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を記録、つ申し送りノートを活用して情報を共有し、介護計画の見直しに役立てています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で抽出される問題に事業所だけでなく法人全体で対応して可能な範囲で柔軟に支援できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のためボランティアの受け入れ等ができておらず、新たに受け入れシステムを作っていく必要があると考えています。実習生の受け入れは積極的に行い新たな人材確保に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様ご家族様の医療に対しての要望を伺い、主治医を継続するか、施設と連携しているかかりつけ医に変更するか選択していただき、適切な医療を受けられるよう支援しています。	協力医が1人/日のペースで訪問診療に来所していることから、常に医療的情報について相談・共有することができる。法人看護師が週3回訪問して健康を管理し、「体調管理表」にて情報共有を図り、迅速な連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が健康チェックを行い、職員会議等で情報の共有に努め、訪問医に報告相談を行う事で迅速な連携が取れるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院と連携を取り、現状の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応を説明して連携を取りながら早期退院につながるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。	重度化に関する事業所の方針は、入居時に利用者・家族に説明し、「医療等に関する意見確認書」にて同意を得ている。状態変化の際には再度家族に説明し、医師・看護師と連携して家族の意向に沿って対応している。職員は、看取り研修を行い、連携した対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施しています。緊急連絡網を作成し、通信連絡訓練を実施しています。またBCP計画を作成をすすめています。	災害時業務継続計画(BCP計画)を進めるとともに、法人防災委員会に各事業所防災委員が参加し、法人全体で災害時の職員体制を整えている。法人と連携して備蓄庫を整備し、水・食料、発電機等の備蓄品を管理している。年2回テーマを決めて災害対策訓練を実施している。	災害対策訓練は、訓練で検証した改善点を次の訓練のテーマとして引き継がれることが望ましいことから、今後の訓練においては、訓練記録に写真を掲載し、改善すべき課題の継承を図りながら、実効ある訓練となることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを大切にし、声かけの仕方の工夫や受容の心を持ち支援させていただいています。	個人情報保護・写真掲載等について、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。定期的な職員研修にて職員の意識づけを図り、人格を尊重した対応を促している。管理者は、課題が散見された際には、職員会議で取り上げるとともに、都度注意を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人の要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切にし、1日をどのように過ごしたいか聞き取り、体操やレクリエーションを取り入れご希望に沿った支援ができるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の伸び具合を見て訪問内容にてヘアカットを行ったり、毎回同じ服にならない様に職員と入居者様が話をして衣類を選ぶなど身だしなみには気を付けて支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員の退職により、ゼロクックによる食事の提供が多くなっています。調理員が入る日は、工夫を凝らしたメニューやお刺身を購入してちらしずしなど提供しています。おやつでは、月に1度その月の誕生日の方を手作りケーキでお祝いしています。	宅配の食材を活用しながら、法人調理課調理員と協力して手作りの食事提供を大切にしている。行事食やおやつ作りの際には、季節感を取り入れて、利用者の好みを反映した献立作りを心掛けている。毎月誕生会の折には、手作りケーキを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量や水分量を記録し、食事の摂取状況をみながら常食・一口大・ペーストなど食形態を変えています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い口腔ケアを行っていただいています。ご自分でできる限り行っていただき、できないところはお手伝いさせていただきます。義歯は夕食後預からせていただき洗浄剤にて消毒を行っています。2名の方が訪問歯科により口腔ケアや治療を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情、しぐさでの誘導など自立に向けた支援を行っております。	業務日誌と排泄管理表に記録して、利用者の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせた対応を心掛けている。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中は声掛けに留意し、安全に配慮したトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、主治医への相談や薬の依頼、体操など個々に合わせた便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しています。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応をしております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応をしております。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の体調や希望に配慮して、柔軟に対応している。入浴剤の利用やシャワー浴・足浴の対応など、利用者がリラックスして入浴できる環境整備と清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者個々の体調や習慣に合わせて、必要に応じて居室で休めるよう環境作りをしています。夜間気持ちよく休めるようネン類の洗濯や布団干しを定期的に行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者個々の状態に合わせて行っております。処方が変わった時には体調変化など注意深く観察し、記録に残し主治医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るお手伝いをさせていただいています。洗濯物たたみやタオルたたみなどが主になっています。気分転換に散歩や体操を行っていただいています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会がなかなか持てないのが現状です。外に出る機会は、天気の良いときに敷地内や近隣の公園などへ散歩に出かける程度になってはいますが、季節の変化を感じられるよう花見や紅葉をドライブで楽しんでいます。	コロナ禍制限緩和を受け、感染状況をみながら、利用者個々の希望や状態に合わせた外出支援を心掛けている。事業所入り口の畑作り、敷地内にある桜・柿・栗の樹木など、季節ごとに外気浴や散歩を楽しむことができる環境である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際にご家族様には、トラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持は極力お断りしています。但し金銭を所持しないことで不穏になる方には最低限の金銭所持を許可しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙に関しては、ご希望により年賀状や手紙の支援をさせていただいています。毎月担当職員より近況報告をさせていただいていますが、その中に一言書いていただくこともできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう入居者の皆様に壁紙づくりをしたり、窓から外の景色を楽しんでもらったりしております。清掃や消毒を定時で行い感染対策を行いつつ居心地の良い環境づくりを心がけています。	感染対策マニュアルに基づき、定期的な清掃、こまめな換気と消毒により、清潔な室内空間が保たれている。居間には、季節を感じられる作品を掲示したり、室温・採光に配慮した明るく居心地よい空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ等を置きお好きな場所で過ごしていただいております。定期的な席替えでいろいろな入居者の方と会話できるよう工夫しています。入居者同士の相性を考えております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族に依頼し、自宅で使い慣れたものやお気に入りのものを居室に入れて居心地の良い空間づくりを工夫しております。	クローゼットがある居室は、入居時にベッドや使い慣れた家具・テレビなどを置いて、動線に配慮した居心地の良い部屋作りを支援している。居室入り口に表札をかけ、居室担当者を中心に家族の協力を得て衣替え等を行い、利用者好みの部屋作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動きを考え居室内の模様替えを行い、自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示をつけることで入居者の皆様が迷わないように工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和 6年 1月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 6年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3,000坪の敷地の中にあり、北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことができる環境の中で、理念にもあります通り入居者の皆様にゆったりとした空間とゆつくりとした時間を提供できるよう心掛けています。天気の良い日は、敷地内や近くの公園・大場川の土手等を散歩して気分転換のため外気浴をしています。秋には、毎年恒例になっている法人本部の畑でとれたサツマイモを焼き芋にして召し上がっていただいたり、貯蔵して食事やおやつ材料として皆さんに召し上がっていただいております。玄関前や施設周辺を整備して皆様に季節の草花を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供することを心がけ、公平平等に尽くさせていただくことで、入居者の皆様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住所地の安久町内会に所属し、行事などにはできる限り参加するようにしています。地域運営推進会議に町内会長をはじめ民生委員近隣の住民の方に参加していただき情報の共有に務めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や町内会の行事に参加することにより、町内に認知症の方が生活するグループホームがあることを認識していただき、介護相談の場を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の現況や活動報告と共に事業所内で起きたヒヤリハットや事故報告をさせていただき、同法人所属の介護支援専門員が介護相談を行い、会議の中ではミニ研修の時間を設け参加者の皆さんからの意見を取り入れて研修を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して意見や情報をいただき、年に4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し、情報交換などを行い、11月に行われる介護の日には、グループホームの紹介や各施設の活動を写真展示の形で行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、法人内に委員会を設置し、委員の職員間で各事業所の取り組みなどを話し合い、その後各事業所へフィードバックして研修を行い各職員に周知するようにしています。身体拘束廃止マニュアルを準備し、や無負えない場合には主治医・看護師・職員・ご家族との話し合いを行いご家族より〇〇老いをいただくようにしています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しても、身体拘束廃止と同様に委員会での取り組みを各事業所において研修を行い、チェックシートを用いて職員の高齢者虐待への意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者本人は認知症がある為制度についての理解が難しいため、主治医への診断書の依頼や個人情報シートの作成など後見人支援センターとのスムーズな話し合いができるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、ご本人(立ちあえる方のみ)ご家族に契約書・重要事項説明書・その他の書類を説明し、入居への不安を取り除くようにしています。制度改正があった場合は、変更の同意書にサインをいただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を促し、毎月入居者の様子を担当者より手紙として送るとともに管理者より電話やメールで様子や変化を伝えることでご家族の不安の抽出に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、要望や問題解決を法人会議で話し合い反映するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談の際、個人の思いを聞き事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内のミニ研修で介護技術や認知症の方への関わり方などを学び個々のスキルアップを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として実務者研修の研修場所を提供し職員のスキルアップの場を提供するとともに、ユニット会議内で研修を行い、報告書を提出して個々のスキルアップに努めています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県や三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報収集や研修の機会を確保し感染症対策の情報や認知症についても研修を行い、職員に周知するようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、不安や困っていることを抽出したり、要望を聞かせていただく事で個人個人に見合った環境を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際にご家族の困っていることや施設に対しての要望を聞かせていただき、入居後も連絡を密にすることで信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談の際に伺った情報をもとにして必要な支援を行う事で、安心安全な生活が送れるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり、常に尊敬の気持ちをもって接するようにし、言葉がけを多く行う事で不安な気持ちを解消したりできるお手伝いをさせていただき共に行う事でお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、居室担当者が入居者様の様子を写真を添えてご家族に伝えるようにしています。面会の難しい方にも管理者より電話やメールにて現況を伝えるようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や親せきの方、ご友人から面会の問い合わせが多くなっています。面会も多少制限はありますが再開しましたので、今後面会の機会を増やすようにしていきたいと思えます。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の状況をや相性を考え、職員が調整役となりながら入居者様同士が支えあい、助け合う事ができたり、笑いながら会話が楽しめるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービス含)が安心安全で過ごせているか退居後の様子をご家族に伺ったり、困っていることがあれば相談に乗るようにさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらないように居室の家具の配置を工夫したりして安心安全に過ごしていただけるようにしています。居室には名札を付けトイレなどは表示を大きくして不安を軽減するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様の会話やコミュニケーションの中からこれまでの生活や暮らし方などを聞かせていただき、ご家族から生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の日々の様子を観察し、介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員間で情報を共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人と話をしたり、ご家族様の意向を伺い、職員会議の中でカンファレンスを行い、居室担当の職員を中心にモニタリングを行い日頃の気づきを介護計画に反映するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、健康管理表、排泄管理表等で日頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を記録、つ申し送りノートを活用して情報を共有し、介護計画の見直しに役立てています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で抽出される問題に事業所だけでなく法人全体で対応して可能な範囲で柔軟に支援できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のためボランティアの受け入れ等ができておらず、新たに受け入れシステムを作っていく必要があると考えています。実習生の受け入れは積極的に行い新たな人材確保に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様ご家族様の医療に対しての要望を伺い、主治医を継続するか、施設と連携しているかかりつけ医に変更するか選択していただき、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が健康チェックを行い、職員会議等で情報の共有に努め、訪問医に報告相談を行う事で迅速な連携が取れるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院と連携を取り、現状の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応を説明して連携を取りながら早期退院につながるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施しています。緊急連絡網を作成し、通信連絡訓練を実施しています。 またBCP計画を作成をすすめています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを大切にし、声かけの仕方の工夫や受容の心を持ち支援させていただいています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人の要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切にし、1日をどのように過ごしたいか聞き取り、体操やレクリエーションを取り入れご希望に沿った支援ができるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の伸び具合を見て訪問内容にてヘアカットを行ったり、毎回同じ服にならない様に職員と入居者様が話をして衣類を選ぶなど身だしなみには気を付けて支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員の退職により、ゼロクックによる食事の提供が多くなっています。調理員が入る日は、工夫を凝らしたメニューやお刺身を購入してちらしずしなど提供しています。 おやつでは、月に1度その月の誕生日の方を手作りケーキでお祝いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量や水分量を記録し、食事の摂取状況をみながら常食・一口大・ペーストなど食形態を変えています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い口腔ケアを行っていただいています。ご自分でできる限り行っていただき、できないところはお手伝いさせていただきます。義歯は夕食後預からせていただき洗浄剤にて消毒を行っています。全ての方が訪問歯科により口腔ケアや治療を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情、しぐさでの誘導など自立に向けた支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、主治医への相談や薬の依頼、体操など個々に合わせた便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しています。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応をしております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者個々の体調や習慣に合わせて、必要に応じて居室で休めるよう環境作りをしています。夜間気持ちよく休めるようネン類の選択や布団干しを定期的に行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者個々の状態に合わせて行っております。処方が変わった時には体調変化など注意深く観察し、記録に残し主治医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るお手伝いをさせていただいています。洗濯物たたみやタオルたたみや床のモップがけ、手すり拭きなどできる方が行っています。天気の良い日は、気分転換に外に散歩に行かれています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会がなかなか持てないのが現状です。外に出る機会は、天気の良いときに敷地内や近隣の公園などへ散歩に出かける程度になっていますが、季節の変化を感じられるよう花見や紅葉をドライブで楽しんでいただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際にご家族様には、トラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持は極力お断りしています。但し金銭を所持しないことで不穏になる方には最低限の金銭所持を許可しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙に関しては、ご希望により年賀状や手紙の支援をさせていただいています。毎月担当職員より近況報告をさせていただいていますが、その中に一言書いていただくこともできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓から外の景色を楽しんでいただいたりしております。清掃や消毒を提示で行い感染対策を行いつつ居心地の良い環境づくりを心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ等を置きお好きな場所で過ごしていただいております。定期的な席替えでいろいろな入居者の方と会話できるよう工夫しています。入居者同士の相性を考えております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族に依頼し、自宅で使い慣れたものやお気に入りのものを居室に入れ居心地の良い空間づくりを工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動きを考え居室内の模様替えを行い、自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示をつけることで入居者の皆様が迷わないように工夫しております。		